



一秒でも早く 前に

那須塩原クリテリウム

負けられない戦い



那須塩原駅西側の大通りを舞台に、自転車のロードレース「那須塩原クリテリウム」が開催されました。国内最高峰のロードレース「Jプロツアー」の第5戦として6月10日に本市で開かれ、約200人のプロ選手が疾走。今回のレースは1周2・3キロのコースを23周。直角やUターンなどのコーナーが各所にあり、これに一気に攻略するかがレースのカギとなりました。

プロの走りを目の前で

朝から強い日差しが照り付けたこの日、主催者発表では訪れた観客は約1万人。応援するチームのTシャツを着た人やカメラを構えて場所を取る人、それぞれが期待を膨らませながらスタートを待っていました。いざレースが始まると、目にもとまらぬ速さで目の前を駆け抜ける自転車の集団。憧れの選手が通り過ぎる一瞬を待ち構

えて、精一杯の声援を送ります。レース終盤の苦しい場面では、疲労がピークに達しながらも一秒でも早くゴールすべく、選手たちは懸命にペダルを漕いでいました。大きな集団がコースに合わせて猛スピードのまま一斉に向きを変え、右に左に、そしてUターンする姿は息を飲むほど。

レース中のアクシデント

皆が真剣勝負で挑むレースではアクシデントが付きもの。午後からは突然の雷雨で路面が滑りやすくなり、コーナー付近では接触による落車が何度か発生しました。これによって血を流す選手もあり、レースの厳しさを実感する場面も。落車した選手の表情からは悔しさがにじみ出ていて、懸命に辛い練習にも耐えてきた選手にとっては言葉では言い表せないものであったはず。

スポーツがまちを元気に

レース会場のすぐ近くでは30を超す飲食店が出店し、観客は地元で舌鼓を打ちました。「今回地元で開催されるから」と、初めてロードレースを見に来た人も多く、今まで観戦したことのないプロ選手の走りや会場の熱気は見る人に感動を与えてくれました。

⑦決勝戦へ地元那須ブルーゼンが入場。多くのファンがカメラを構えた ⑧特設ステージでは那須ブルーゼンによるトークショーも ⑨決勝レース後、インタビューに答える2位の宇都宮ブリッツェン・岡選手 ⑩沿道にツツジが咲き誇るなか、選手たちが疾走した



①決勝戦終盤でデッドヒートを繰り広げるピセンテ選手と宇都宮ブリッツェン・岡選手 ②コーナー数多く、実力差が出やすいレースとなった ③選手との距離が近く、レースを肌で感じることができる ④落車も相次いだ ⑤那須塩原駅前大通りを疾走する自転車の集団 ⑥観客の目の前を瞬で駆け抜けていく

レース開催にあたっての御礼
6月10日(土)に開催された第1回那須塩原クリテリウムに際しては、交通規制やボランティアでのお手伝いなど、ご理解ご協力をいただき誠にありがとうございました。今後も第2回の開催ができるよう、一生懸命努力してまいりたいと思っておりますので、ご高配を賜りますようお願い申し上げます。
那須塩原クリテリウム実行委員会